

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA全農ふくれん営農総合課)
(公印省略)

営農情報 6

大豆の適期収穫及び汚損粒軽減について

本年産の大豆は、梅雨末期の降雨により播種の最盛期が7月下旬とやや遅れました。播種後は降雨が非常に少なく生育初期に乾燥が続いたため、主茎長が短いほ場が多くみられます。一方、梅雨の合間に早播きしたほ場では、主茎長が伸びた反面、一部で倒伏が発生しています。

大豆の生育状況は、全体的に落葉が遅いため子実の充実は良い傾向ですが、収穫時期は遅れる見込みであり、播種時期等によりほ場によって成熟期に差がある状況です。また、昨年同様に莢の着く位置が平年よりかなり低くなっており、収穫時に刈り残しや泥のかき込みが発生する恐れがあります。

そのため、適期収穫及び収穫ロス・汚損粒の発生軽減に向けて、以下の取組を行いましょう。

適期収穫

- コンバインによる収穫開始適期は、茎を手で折ると軽くポキッと折れる（分離できる）状態（茎水分50%以下、子実水分18%以下）で刈り取る。刈り遅れは立毛中の裂莢や品質低下を招くので、収穫適期を迎えたほ場から速やかに収穫を行う。



分離できない（刈取不適）



分離できる（刈取適期）

収穫ロス・汚損粒の発生軽減へ

- 着莢位置が低い、または倒伏した大豆を収穫する際は、「リフターキット」を装着し、刈取部への取込みを良くし、収穫ロスの軽減を図る。また、コンバインの速度を抑えて丁寧な作業に努める。
- 汚損粒の発生防止のため、青立ち株や大型雑草を収穫前に取り除くとともに、茎水分の高い朝・夕や露のある時に収穫作業を行わない。

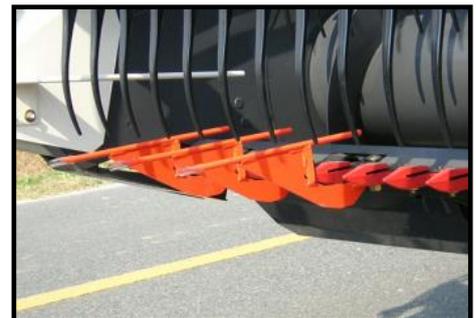


写真 リフターキット